日本人の韓国及び韓国人に対するイメージとその形成要素

――調査時期及び調査対象者の属性別比較を中心に――

尹　　秀美

（受付　2020年10月30日）

1. はじめに

本研究では，日本人大学生が韓国及び韓国人に対してどのようなイメージを持っているのか，そしてそのイメージの形成要素は何なのかについて考察する。そのため，2020年1月に，広島修道大学の学生を対象に行ったアンケート調査を用いて，①韓国語[1]中級学習者，②韓国語初級学習者，③韓国語非学習者の比較を中心に分析する。広島修道大学には，韓国語専攻やコースがなく，本研究での学習者は，教養科目（初修外国語科目：初級学習者，外国語科目：中級学習者）として韓国語を履修する学生を指す。

また，本研究の結果について，筆者が2013年7月に，金沢大学の学生を対象に行った同じ調査の結果と比較し，調査時期や調査対象者の属性（性別，韓国語[2]学習経験の有無）による類似点・相違点について，①2020年調査の男性学習者，②2020年調査の女性学習者，③2013年調査の男性学習者，④2013年調査の女性学習者，⑤2020年調査の男性非学習者，⑥2020年調査の女性非学習者，⑦2013年調査の男性非学習者，⑧2013年調査の女性非学習者のようにグループ分けし，より詳しく考察する。金沢大学にも韓国語学科やコースが設置されていないため，調査対象者の韓国語学習者は，広島修道大学の調査対象者と同じく教養科目（初習[3]外国語）として韓国語科目を履修していた学生である。

2. 先行研究

これまで，日本における韓国や韓国人に対する意識についての調査はいくつかあった（生越 2006；2019，林・姜 2007，呉・金 2009，尹・南 2014；2015；2016，斉藤 2020）。その中でも，日本人が，韓国に対して持つイメージだけではなく，そのようなイメージを持つよう

1　広島修道大学では，科目名として「韓国・朝鮮語」を用いるが，本研究では省略して「韓国語」と言う。
2　金沢大学では，アンケート調査を行なった2013年に，科目名として「朝鮮語」を使用していたが，本研究では統一して「韓国語」を使用する。
3　金沢大学における用語である。金沢大学においては，中級学習者は調査対象にしていなかった。

になったイメージ形成の要素までを調査したのは，生越（2006；2019）と尹・南（2014；2015；2016）である。

特に，本研究との関連性が高い生越（2019）では，韓国語の学習経験がある日本の大学生[4]を対象に2003年と2018年に実施したアンケート調査の結果を比較している（cf. 生越 2006）。その比較により，2003年に比べて2018年は，音楽を中心とした韓国のサブカルチャーが韓国のイメージ形成に大きく影響を与えていること，2003年と2018年ともに，領土問題や歴史問題もイメージ形成に大きく影響していることが明らかになった。また，男性と女性の比較を通して，女性はサブカルチャーや韓国製品の影響度が高く，男性は歴史問題や新聞報道など，マスコミや SNS で流される情報に影響されやすいことを明らかにした。生越（2019）の調査対象者は，全て韓国語学習者であり，韓国語非学習者に対する調査は行っていない。本研究では，韓国語非学習者の韓国及び韓国人に対するイメージとそのイメージ形成要素についても分析する。

尹・南（2014；2015；2016）では，日本人が韓国及び韓国人に対して持つイメージについて，関心度や好感度，そして具体的イメージの例及びイメージ形成要素を，韓国語学習者と韓国語非学習者の比較を中心に調査・分析した。尹・南（2014；2015；2016）は，韓国語非学習者より韓国語学習者の方が，韓国及び韓国人に対する関心や好感を持っていることを確認した。また，イメージ形成の要素については，韓国語非学習者及び韓国・韓国人に対する関心度や好感度が低いグループはメディアなどの限られた要素から，韓国語学習者及び韓国・韓国人に対する関心度・好感度が高いグループの方はより様々な要素から影響を受けていることを明らかにした。尹・南（2014）では，韓国語学習者を初級韓国語学習者に限定して調査を行ったが，本研究では，初級学習者に加え中級学習者も調査対象者にし，学習期間やレベルによる学習者間の比較も行う。

3. 調　査　方　法

3.1. 調査方法

2020年 1 月[5]に，広島修道大学の2019年度後期授業で，主に 1 年生向けに開講される『韓国・朝鮮語Ⅱ・Ⅳ』『中国語Ⅱ・Ⅳ』『フランス語Ⅱ・Ⅳ』[6]と，2 年生以上が履修できる『言

4　韓国語を教養科目として履修したことがある学生である。
5　広島修道大学の後期授業は大体 1 月末まで行われる。そのため，本研究の初級学習者の韓国語学習歴は前期15週に加え，後期10週以上になる。1 週につき 2 コマずつ授業が行われる。1 コマは90分である。
6　広島修道大学には，英語以外の初修外国語科目として「韓国・朝鮮語」「中国語」「フランス語」「ドイツ語」「スペイン語」が開講され，またそれぞれの外国語に関連する授業がある。本研究では，韓国語非学習者として，アジア圏言語である中国語履修者とヨーロッパ圏言語であるフランス語履修者を調査対象者にした。なお，これらの科目について，学部によって卒業必修単位は異なる。

語と文化Ⅱ・Ⅳ（韓国・朝鮮)』[7]を履修する学生を調査対象者に，「韓国・韓国人に対するイメージに対する意識調査」というタイトルでアンケート調査を行った。アンケート調査は，各科目の授業時間を利用して，担当教員の立ち合いの下で，無記名形式で行われた。アンケートに対する回答は，選択式及び記述式で構成される。

3.2. 調査対象者

本研究の調査対象者は，2019年度広島修道大学の外国語科目（上記3.1. 調査方法参考）を履修した学生である。表１は，調査対象者のグループごとの特性を表すものである。

『韓国・朝鮮語Ⅱ・Ⅳ』の履修者を「初級学習者」，『中国語Ⅱ・Ⅳ』『フランス語Ⅱ・Ⅳ』の履修者を「非学習者」『言語と文化Ⅱ・Ⅳ（韓国・朝鮮)』の履修者を「中級学習者」のように区別した。調査対象者のうち，有効な回答をしたのは，男性111名と女性126名の合計237名である。グループ別有効回答者数は，初級学習者が83名（男性：32名，女性：51名），非学習者が106名（男性：74名，女性：32名），中級学習者が48名（男性：５名，女性43名）である。

表１　調査対象者の特性

区分	中級学習者		初級学習者		非学習者		計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
性別人数（名）	5	43	32	51	126	32	111	126
総人数（名）	48		83		106		237	
年齢（歳）	19.9		18.8		18.8		19.1	
出身地（%）	広島県（77.08） 島根県（12.50） 山口県（6.25） その他（4.17）		広島県（68.67） 山口県（12.05） 島根県（7.23） その他（12.05）		広島県（69.44） 山口県（7.41） 島根県（6.48） その他（14.81）		広島県（71.31） 山口県（8.86） 島根県（8.02） その他（11.81）	
専攻（%）	人文（41.67） 健康科（31.25） 商（16.67） 経済（8.33） 法（2.08）		人文（45.78） 法（27.71） 健康科（24.10） 商（2.41）		法（26.85） 商（20.37） 健康科（19.44） 経済（15.74） 人文（14.81） 人環[8]（0.93）		人文（31.22） 健康科（23.63） 法（22.36） 商（13.50） 経済（8.86） 人環（0.42）	

※人文：人文学部，法：法学部，健康科：健康科学部，商：商学部，経済：経済科学部，人環：人間環境学部

7　『言語と文化』科目は，それぞれ関連する初修外国語科目の４単位を取得している学生のみが履修できる科目である。

8　人間環境学部は，2020年度から卒業必修科目に初修外国語科目が加わったが，本アンケート調査が行われた2019年度の時点では，卒業必須科目に初修外国語科目は含まれていなかった。

調査対象者の平均年齢は，19.1歳（中級学習者：19.9歳，初級学習者：18.8歳，非学習者：18.8歳）である。調査対象者の出身地を見ると，広島修道大学の所在地である広島県が71.31％（中級学習者：77.08％，初級学習者：68.67％，非学習者：69.44％）で圧倒的に多い。次に同じく中国地方の山口県と島根県がそれぞれ8.86％（中級学習者：6.25％，初級学習者：12.05％，非学習者：6.48％）と8.02％（中級学習者：12.50％，初級学習者：7.23％，非学習者：6.48％）でほぼ同じである。

専攻は，学習者グループでは人文学部（中級：41.67％，初級：45.78％），健康科学部（中級31.25％，初級：24.10％），法学部（初級：27.71％）が多く，非学習者グループでは，法学部（26.85％）と商学部（20.37％），健康科学部（19.44％）が約67％に及ぶ。グループ別にやや異なるが，全体的に人文学部が31.22％で一番多く，次に健康科学部23.63％，法学部23.63％の順である。

4. 結果及び考察

4.1. 韓国・韓国人に対する関心度

ここでは，日本人大学生が，韓国・韓国人に対して，どれほど関心があるのか（ないのか）について，その調査結果を分析する。

まず，今回（2020年）広島修道大学の学生を対象に行った調査結果について，学習程度（韓国語中級学習者，韓国語初級学習者，韓国語非学習者）別に考察する。次に，上記2020年の結果と，筆者が2013年に金沢大学の学生を対象に実施した調査の結果を，調査時期や調査対象者の属性（韓国語学習者と韓国語非学習者，男性と女性）別に分析する。最後に，同じく広島修道大学における韓国語学習者を調査対象に，2005年に実施された林・姜（2007）の調査結果と，上記2020年の結果について調査時期を中心に考察する。

(1) 学習程度別比較

表 2 及び図 1 は，韓国及び韓国人に対する関心度について，それぞれ，中級学習者，初級

表 2　韓国語の学習程度別韓国・韓国人に対する関心度　　※単位：％（名）

	中級学習者	初級学習者	非学習者	合計
大変関心有	39.58（19）	33.73（28）	0.94（1）	12.66（30）
まあまあ関心有	52.08（25）	43.37（36）	37.74（40）	42.62（101）
どちらでもない	6.25（3）	13.25（11）	29.25（31）	18.99（45）
あまり関心無	2.08（1）	7.23（6）	16.98（18）	10.55（25）
全然関心無	0.00（0）	2.41（2）	15.09（16）	7.59（18）

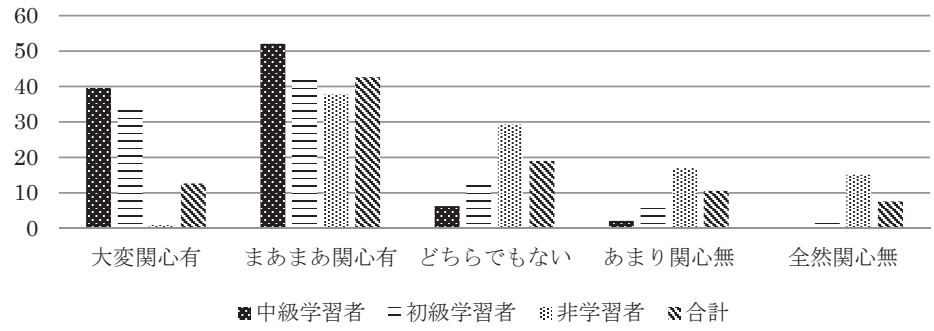


図 1　韓国語の学習程度別韓国・韓国人に対する関心度　　※単位：%

学習者，非学習者の結果を表とグラフで表したものである。

全体的に，「大変関心がある」と答えた人が12.66%と「まあまあ関心がある」と答えた人が42.62%で，調査対象者の半分以上（約55%）が，韓国及び韓国人に関心があることが分かった。「どちらでもない」が18.99%，「あまり関心がない」が10.55%，「全然関心がない」が7.59%であるが，韓国及び韓国人に関心がない人の割合は全体の約18%に過ぎなく，どちらかと言えば，日本人の大学生は，韓国及び韓国人に関心があることが明らかになった。

韓国語学習程度別グループの結果を見ると，それぞれ，「大変関心がある」と「関心がある」と答えた人の割合は，中級学習者（39.58%＋52.08%＝91.66%），初級学習者（33.73%＋43.37%＝77.1%），非学習者（0.94%＋37.74%＝38.68%）の順である。中級学習者と非学習者の韓国及び韓国人に関する関心度の差は約53ポイント，初級学習者と非学習者の差は約38ポイントで，韓国語学習者と非学習者の差は非常に大きい。元々韓国や韓国人に関心を持っていた人が学習を始め，学習を続けることによってさらに関心度が上がったものと考えられる。

中級学習者については，性別構成が他のグループと異なり女性の割合が約90%である。性別に関しては後で考察するが，韓国語学習者における女性だけの回答をここで簡単に示しておきたい。女性の中級学習者は「大変関心がある（41.86%）」，「関心がある（51.16%）」で，初級学習者の「大変関心がある（39.22%）」と「関心がある（47.06%）」の回答より，どちらもその割合が高いことが確認できる。

（2）調査時期と調査対象者の属性別結果

筆者は，2013年に金沢大学の学生[9]を対象に，本研究で用いたアンケート調査を実施した。

9　調査対象者は，2013年度前期初習言語（朝鮮語・中国語・フランス語・ドイツ語）の日本人履修者である。各言語科目の履修者のほとんどは１年生であり，出身は金沢大学の所在地である石川県（29.49%），福井県（13.59%），富山県（13.33%）である。本研究の調査対象者と同じく韓国語を専攻としない，つまり教養科目として履修している学生である。

ここでは，2013年の調査結果と今回の調査結果を比較する。その際，学習者間及び非学習者間における性別による結果も比較する。2013年の調査では，韓国語中級学習者は調査対象者にしていないため，韓国語学習者間の比較は，2013年と2020年の韓国語初級学習者の結果により行う。非学習者についても，2013年と2020年の調査対象者を合わせるため，それぞれ，初級外国語の中国語とフランス語履修者にする。表 3 と図 2 は，2013年と2020年の調査結果をそれぞれ表とグラフで表したものである。

表 3　調査時期及び調査対象者の属性別韓国・韓国人に対する関心度　　※単位：%

学習別	学習者（初級）				非学習者			
年度	2013		2020		2013		2020	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大変関心有	7.41	40.00	25.00	39.22	5.10	9.62	1.35	0.00
	26.87		33.73		7.43		0.94	
まあまあ関心有	59.26	47.50	37.50	47.06	30.61	36.54	35.14	43.75
	52.24		43.37		33.66		37.74	
どちらでもない	18.52	10.00	21.88	7.84	31.63	38.46	25.68	37.50
	13.43		13.25		35.15		29.25	
関心無	7.41	2.50	9.38	5.88	22.45	11.54	21.62	6.25
	4.48		7.23		16.83		16.98	
全然関心無	7.41	0.00	6.25	0.00	10.20	3.85	16.22	12.50
	2.99		2.41		6.93		15.09	

2013年と2020年の学習者の結果を見ると，「（大変）関心がある」と答えた人は，2013年に比べ2020年で男女ともに若干減ったが（男性：約 4 ポイント，女性：約 1 ポイント），ほとんど同じである。2013年と2020年の男性と女性を比べると[10]，両方ともに，男性より女性の回答が約20ポイント多い。「大変関心がある」と「関心がある」を詳しく見ると，女性グループの回答は，両方の回答において，2013年（大変関心がある：40%，関心がある：47.5%）の結果と2020年（大変関心がある：37.92%，関心がある：47.06%）の結果がほぼ同じである。一方，2013年と2020年の男性の「大変関心がある」の回答を比較すると，2013年は7.41%であったが2020年は25%で，約18ポイント増えたことが目立つ。

「（全然）関心がない」の回答においても，全体的に10%以下で，2013年と2020年で大きな差は見られない。男女別に見ると，女性より男性の方が約10ポイント多いが，「（大変）関心

10　2013年の性別による比較の結果は，尹・南（2014；2015；2016）にあるのでここでは省略する。

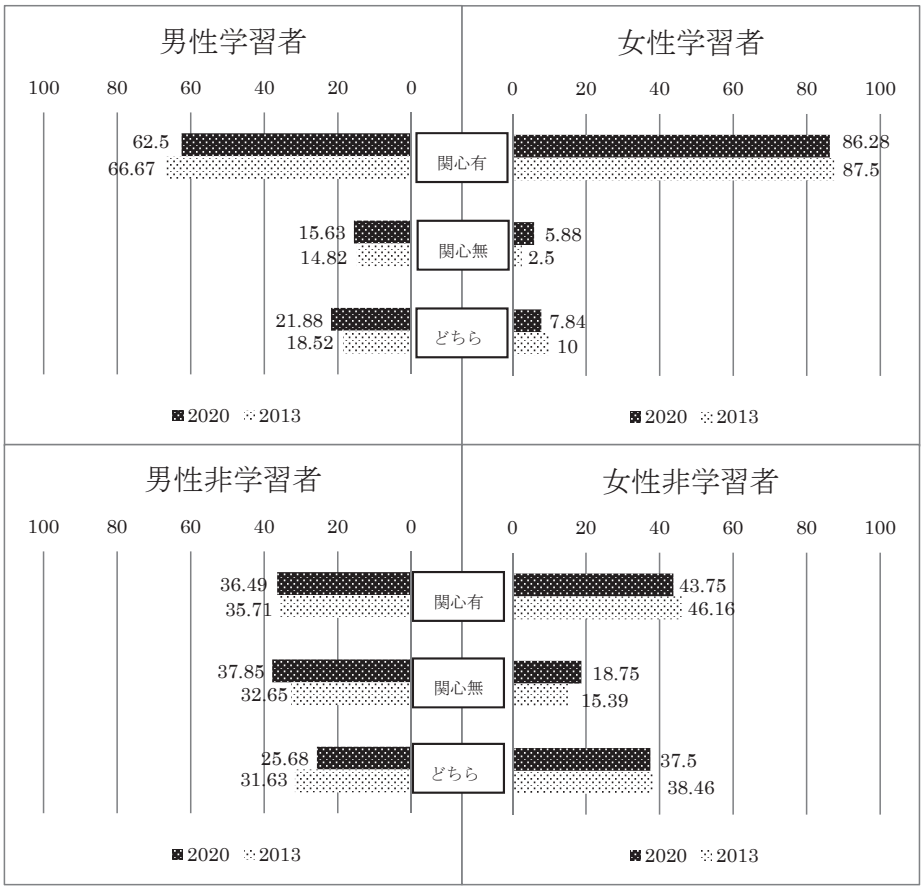


図 2　調査時期及び調査対象者の属性別韓国・韓国人に対する関心度
※単位：%，関心有（大変関心がある＋関心がある），関心無（全然関心ない＋関心ない），どちら（どちらでもない）

がある」の回答の差の半分程度である。

非学習者の結果を調査時期や男女別に見ると，男女ともに2013年と2020年の調査結果に大きな違いはない。男性の「(大変) 関心がある」の回答は，2013年に比べ2020年で若干増え（約１ポイント），女性は若干（3ポイント）減ったが，全体的に学習者グループと同じく，男性より女性の方が韓国・韓国人に関心があると答えた。2020年の男女の差は，学習者グループの男女の差よりは大きくない（約７ポイント)。「(全然) 関心がない」の回答において，男性非学習者の回答は，「(大変) 関心がある」の回答とほぼ同じであるが，他のグループとは異なる点である。女性の「(全然) 関心がない」の回答は学習者グループと同じく，「(大変) 関心がある」に比べて少ない（約25ポイント)。

(3) 広島修道大学における初級学習者の調査時期別比較

林・姜（2007）では，2005年12月[11]に，本研究の調査対象者と同じく広島修道大学の「韓国・朝鮮語Ⅳ」履修者を調査対象に，韓国語学習者の意識及び認識に関するアンケート調査を行った。本調査が行われた2020年の15年前になるが[12]，同じ大学において，同じ授業を履修する学生を調査対象者にしているので，本調査の結果と比較するための貴重な資料である。

図 3 は，広島修道大学における韓国語学習者（初級）の，韓国及び韓国人に対する関心度を表したものである。

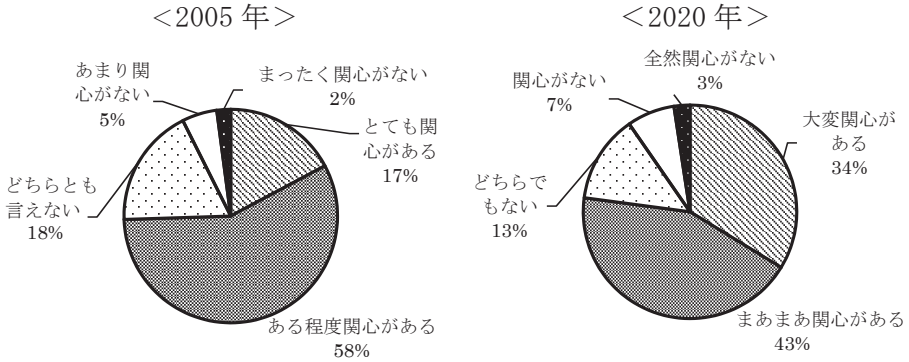


図 3　韓国語初級学習者の韓国及び韓国人に対する関心度
（左：2005年調査（林・姜（2007）より，右：2020年調査（本研究））

2005年の調査結果は，「とても関心がある」[13]17%，「ある程度関心がある」58%，「どちらとも言えない」18%，「あまり関心がない」５%，「まったく関心がない」２%である。「とても関心がある」と「関心がある」を合わせると，75%の学習者（初級）が韓国及び韓国人に関心を持っていることが分かる。

一方，2020年の結果は，「大変関心がある」34%，「まあまあ関心がある」43%，「どちらでもない」13%，「あまり関心がない」７%，「全然関心がない」２%である。「大変関心がある」と「まあまあ関心がある」の回答を合わせると77%で，2005年の初級学習者とほとんど同じで約２ポイント増加した。ところが，関心度の一番高い「とても関心がある」と「大変関心がある」の回答を比較すると，2005年17%と2020年34%で，ちょうど２倍増加したことが分かる。

広島修道大学において，2005年に比べて2020年現在の韓国語履修者は著しく増えている[14]。

11　調査時期を見ると，本研究の調査対象者（初級）と同じく，大学での韓国語学習者歴は，前期授業の15週（1週２コマ，１コマ90分）と後期授業の８週以上になると考えられる。
12　年度では14年前になる。
13　林・姜（2007）で用いられた表現をそのまま引用した。
14　広島修道大学の初修外国語科目である「韓国・朝鮮語Ⅰ～Ⅳ」の2005年度のクラス数は48クラスであったが，2019年度のクラス数は68クラスである。

広島修道大学の韓国語授業は，担当教員は変わったものの，その内容は形式において2005年と2020年で異なる点はない。2005年の学習者に比べ，2020年の学習者の方が，大学入学前から韓国に関心を持っていて，韓国語を履修することになったケースが多くなったと考えられる。韓国語履修者が増えたことについても同じ理由で説明できるのであろう。また，林・姜（2007）では，学習者の性別による調査は行っていないため確かではないが，今回（2020年）の結果から，おそらく「大変関心がある」と答えた男性学習者が増加したのがその原因の一つであると考えられる。

4.2. 韓国・韓国人に対する好感度とイメージ形成要素

4.2.1. 韓国に対する好感度とイメージ形成要素

（1）学習程度別比較

韓国や韓国人に関心があることが，韓国に対して好感を持つことに繋がるとは必ずしも言えない。ここでは，「韓国」という国に対する好感度について，韓国語学習者と非学習者の結果を比較する。さらに，韓国に対して好感を持つ，または持たないといったイメージを持つようになった要因について，その形成要素を分析する。

表 4 及び図 4 は，日本人大学生の韓国に対する好感度を，韓国語学習者（初級・中級）と

表 4　韓国語の学習程度別韓国に対する好感度　　※単位：%（名）

	中級学習者	初級学習者	非学習者	合計
とても良い	14.58（7）	16.87（14）	1.89（2）	9.70（23）
良い	54.17（26）	37.35（31）	18.87（20）	32.49（77）
どちらでもない	29.17（14）	36.14（30）	49.06（52）	40.51（96）
悪い	2.08（1）	7.23（6）	23.58（25）	13.50（32）
かなり悪い	0.00（0）	2.41（2）	6.60（7）	3.80（9）

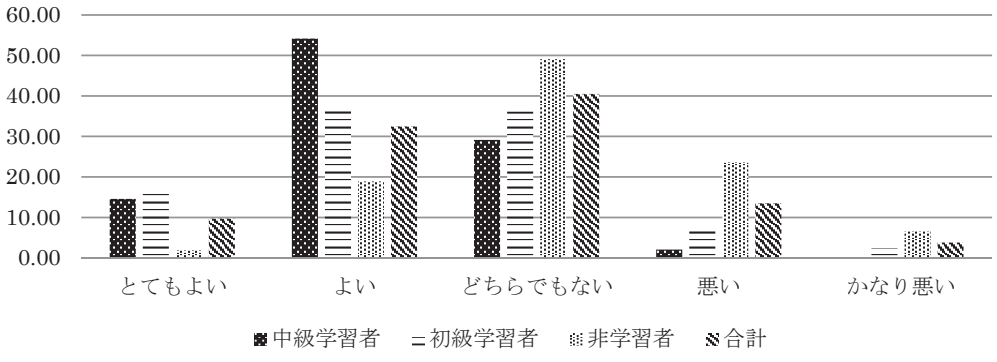


図 4　韓国語の学習程度別韓国に対する好感度　　※単位：%

韓国語非学習者別に表とグラフで示したものである。

韓国に対する好感度について，中級学習者は，「とても良い」14.58%，「良い」54.17%，「どちらでもない」29.17%，「悪い」2.08%で，「かなり悪い」と答えた人は一人もいなかった。初級学習者は，「とても良い」16.87%，「良い」37.35%，「どちらでもない」36.14%，「悪い」7.23%，「かなり悪い」2.41%であった。非学習者は，「とても良い」1.89%，「良い」18.87%，「どちらでもない」49.06%，「悪い」23.58%，「かなり悪い」6.60%であった。全体的には，「とても良い」9.70%，「良い」32.49%，「どちらでもない」40.51%，「悪い」13.50%，「かなり悪い」3.80%であった。

「とても良い」と「良い」の答えを合わせた結果を見ると，割合が高い方から，中級学習者（68.75%），初級学習者（54.22%），非学習者（20.76%）の順である。中級学習者と初級学習者は，どちらも半分以上が，韓国に対して良いイメージを持っているが，非学習者は約 2 割が良いイメージを持っていて，学習者との差（中級と約48ポイント，初級と約33ポイント）が大きい。

「悪い」と「かなり悪い」を合わせた回答は，非学習者（30.18%），初級学習者（9.64%），中級学習者（2.08%）の順である。非学習者は，約 3 割の人が，韓国に対して悪いイメージを持っていて，学習者で悪いイメージを持っている人は 1 割以下である。学習者と非学習者間の差は，非学習者と中級学習者で約28ポイントと非学習者と初級学習者で約21ポイントであるが，良いイメージの割合の差より少ない。韓国語学習者は，韓国に対して良いイメージを持っている人が悪いイメージを持っている人よりかなり多く，韓国語学習者は韓国に対して好感を持っていると言える。一方，非学習者は，約半分くらいの人はどちらでもないが，残り半分の人の中に，良いイメージと悪いイメージを持っている人がいて，悪いイメージを持っている人が若干多い。

上記結果から，従来の研究で明らかにされてきたように，韓国語の学習経験の有無が韓国に対するイメージ形成に大きく影響することが，本研究でも確認された。以下では，韓国語学習経験の有無に加え，より具体的にどのような要素が韓国に対するイメージを形成するのかを見てみる。韓国の伝統文化や料理など各項目が，調査対象者の韓国・韓国人に対するイメージ形成にどのくらい影響を与えているのか，それぞれ「大（3）」「中（2）」「小（1）」「無（0）」にチェックしてもらい数値化した。図 5 は，韓国語の学習程度別韓国に対する好感度とイメージ形成要素をグラフに表したものである。

中級学習者と初級学習者は，大体同じ傾向である。全体的に非学習者に比べて様々な要素から影響を大きく与えられていることが分かる。その中でも，「料理」「映画やドラマ」「K-POP」「大学での教育」「韓国人教員」の項目が2.5点に近く，かなり大きく影響されていた。中級学習者と初級学習者でやや差が見られるのは，「旅行」である。中級学習者の中に

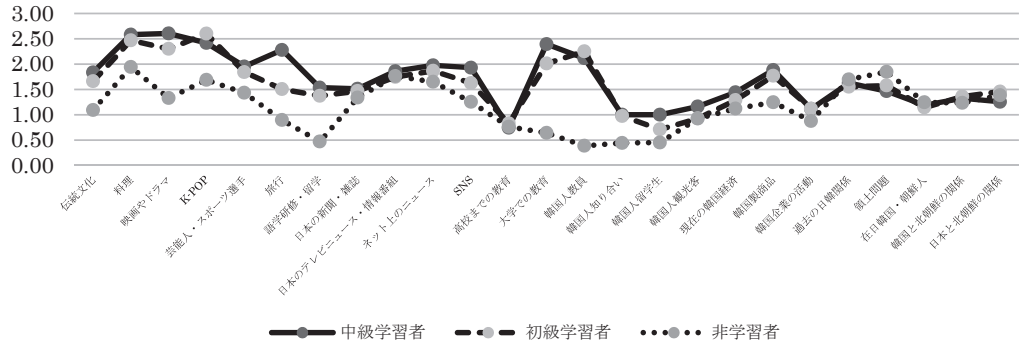


図 5　韓国語の学習程度別韓国に対する好感度とイメージ形成要素

は，韓国に旅行に行った人が多く，現地で実際の韓国・韓国人に接した経験が，韓国に対して好感を持つことに繋がったと考えられる。

非学習者は，ほとんどの項目において，学習者より影響されていないと答えたが，「過去の日韓関係」「領土問題」「在日韓国・朝鮮人」「日本と北朝鮮の関係」において，学習者より大きく影響されていることが明らかになった。学習者と非学習者ともに，日本の新聞や雑誌，テレビニュースや情報番組などメディアを，韓国に対するイメージ形成要素にしているが，このようなメディアから得る内容が異なっている可能性がある。

図 6 は，韓国に対する好感度とそのイメージ形成要素の相関関係をグラフで表したものである。

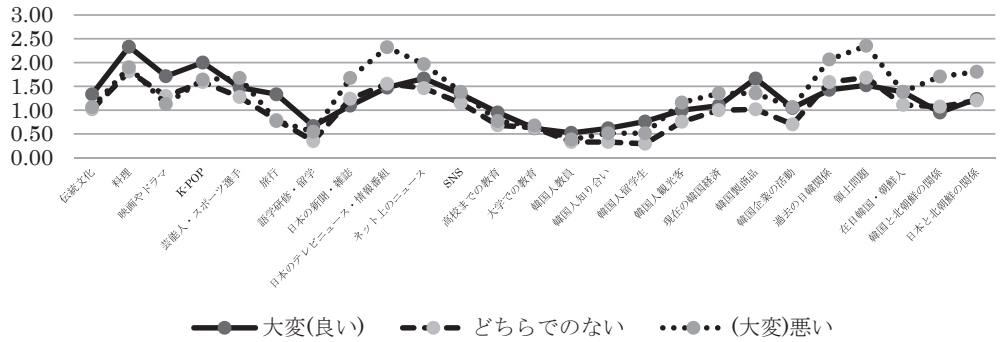


図 6　韓国に対する好感度とイメージ形成要素

韓国に対して（大変）良いイメージを持っている人は，（大変）悪いイメージを持っている人より「伝統文化」「料理」「映画やドラマ」「K-POP」「「旅行」「「語学研修・留学」「韓国人教員」「韓国人知り合い」「韓国人留学生」「韓国製商品」から大きく影響されている。反対に（大変）悪いイメージを持っている人は，（大変）良いイメージを持っている人に比べ，「芸能人・スポーツ選手」「日本の新聞・雑誌」「日本のテレビニュースや情報番組」「ネット上の情

報」「韓国人観光客」「現在の韓国経済」「過去の日韓関係」「領土問題」「韓国と北朝鮮の関係」「日本と北朝鮮の関係」からより多く影響されている。

（2）調査時期及び地域別調査結果

日本と韓国の民間団体（日本：言論 NPO，韓国：東アジア研究院（EAI））は，2013年から共同で相手国（日本と韓国）に対する好感度を調査し発表している。2013年度以降のデータを見ると，両国に対する好感度は，政治的関係やイベントなどによって毎年変わっていた[15]。本研究のアンケート調査時期と同じ年である2020年 9 月から10月にかけて実施した世論調査の結果が2020年10月15日に発表された。相手国（日本と韓国）に対する印象について，韓国に対する日本の世論は「良い」と「どちらかといえば良い」が25.9%（2013年：31.1%），「良くない」と「どちらかといえば良くない」が46.3%（2013年：37.3%）であった[16]。言論 NPO と東アジア研究院（EAI）の2013年と2020年の調査結果を比べると，韓国に対して良いイメージを持つ日本人の割合は減り，悪いイメージを持つ日本人の割合は増えている。では，本研究における2020年と2013年の調査結果はどうであろうか。

韓国に対する好感度について，調査時期や調査対象者の属性別結果表（表5）とグラフ（図

表 5　調査対象者の属性別韓国に対する好感度（2013/2020）　※単位：%

学習別	学習者（初級）				非学習者			
年度	2013		2020		2013		2020	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
とても良い	0.00	12.50	15.63	17.65	1.02	3.85	2.70	0.00
	7.46		16.87		2.48		1.89	
良い	55.56	52.50	31.25	41.18	17.35	39.42	14.86	28.13
	53.73		37.35		28.71		18.87	
どちらでもない	29.63	32.50	37.50	35.29	58.16	51.92	45.95	56.25
	31.34		36.14		54.95		49.06	
悪い	7.41	2.50	9.38	5.88	13.27	2.88	27.03	15.63
	4.48		7.23		7.92		23.58	
かなり悪い	7.41	0.00	6.25	0.00	10.20	1.92	9.46	0.00
	2.99		2.41		5.94		6.60	

15　日本人が韓国に対してよいイメージを持つ割合は，2013年：31.1%，2014年：20.5%，2015年：23.8%，2016年：29.1%，2017年：26.9%，2018年：22.9%，2019年：20.0%，2020年：25.9%である。日本人が韓国に対して悪いイメージを持つ割合は，2013年：37.3%，2014年：54.4%，2015年：52.4%，2016 年：44.6%，2017 年：48.6%，2018 年：46.3%，2019 年：49.9%，2020 年：46.3%である。出所：韓国 東アジア研究院（EAI）ホームページ（www.eai.or.kr）

16　出所：韓国 東アジア研究院（EAI）ホームページ（www.eai.or.kr）

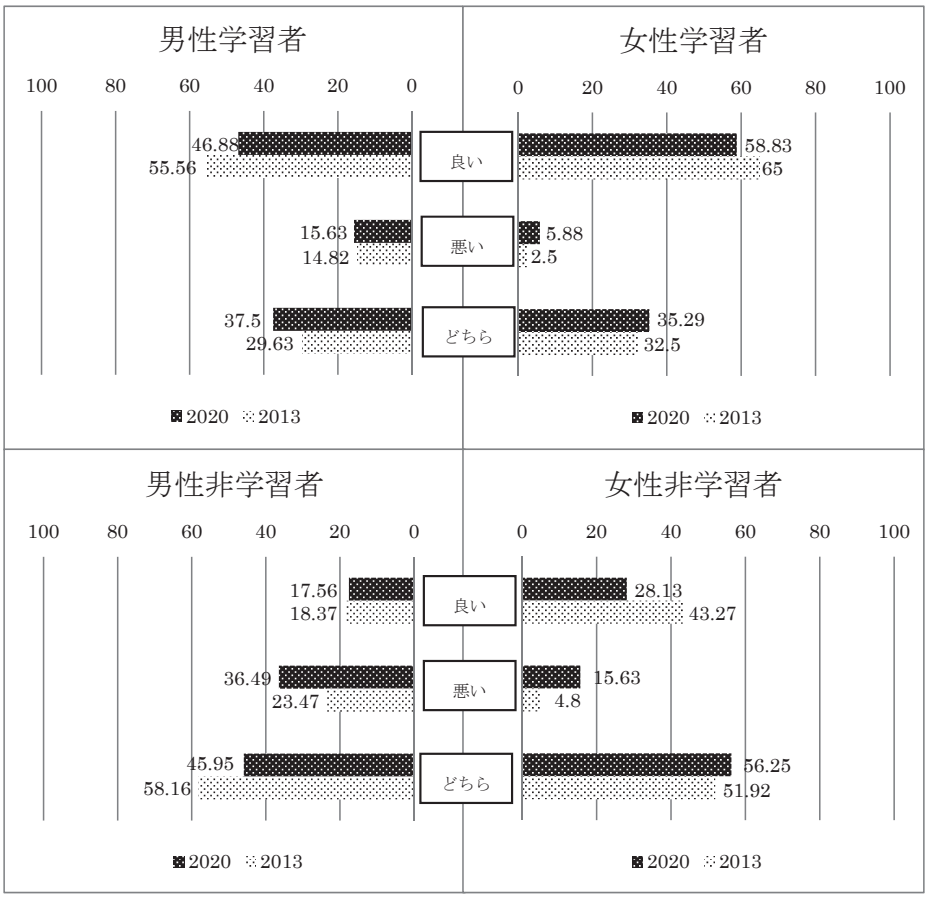


図 7　調査時期及び調査対象者の属性別韓国に対する好感度
※単位：%，良い（とても良い＋良い），悪い（かなり悪い＋悪い），どちら（どちらでもない）

7）で表した。

2013年と2020年の学習者グループを見ると，韓国に対する好感度（「とても良い」+「良い」）は，2013年61.19%，2020年54.22%である。2013年に比べ，2020年の方が約７ポイント少ない。ところが，「とても良い」の回答だけを見ると，2020年（16.87%）の方が2013年より（7.46%）約９ポイント多い。この結果は，生越（2019）と同じであり，2003年の学習者より2018年の学習者の方が，「（とても）良い」イメージを持っている割合は少ないが，「とても良い」だけをみると，2003年より2018年の学習者の回答がより多い。なお，生越（2019）の2018年の調査結果は，本研究の結果とその数値において少し異なる。男性学習者は，「とても良い」が10.9%，「良い」が25.8%で，それぞれ本研究の結果よりそれぞれ約５ポイントと16ポイント少ない。本研究では，特に，男性は，2013年には「とても良い」と答えた人が一人もいなかったのに対し，2020年には15.63%の人が，韓国に対するイメージが「とても良い」と

答えた。「（かなり）悪い」は，2013年（7.47%）に比べ2020年（9.64%）で若干増えているが，いずれも全体の10%以下である。

2020年の学習者グループの男女を比較すると，関心度と同じ傾向であり，男性（46.88%）に比べ女性（58.83%）の方が（大変）良いイメージを持っていることが分かる。ところが，その差（約 9 ポイント）は，上記の関心度の差に比べてそれほど大きくない。「（かなり）悪い」は，男性（15.63%）に比べ女性（5.88%）の方が約10ポイント少ない。特に女性は，「かなり悪い」と答えた人が一人もいなかったが，これは2013年の結果と同じである。

2013年と2020年の非学習者グループを見ると，「（とても）良い」の回答は，2013年31.19%，2020年20.76%で，約10ポイント減った。男性の回答（2020年：17.56%，2013年：18.37%）はほとんど同じであるが，女性は2020年28.13%，2013年43.27%で約15ポイント減少した。女性の方が減少幅は大きいが，それでも男性より約11ポイント多い。2020年の「（かなり）悪い」は，男性（36.49%）に比べ女性（15.63%）の方が約21ポイント少ない。「（かなり）悪い」に一番多く回答したのは，男性非学習者グループで，女性非学習者グループの回答率は男性学習者グループの回答率まったく同じである。韓国語学習の経験と同様，性別も韓国に対する好感度に影響していると考えられる。

図 8 は，韓国語学習者の調査時期別イメージ形成要素をグラフで表したものである。

2013年の学習者に比べ，2020年の学習者がより多く影響を受けたと答えたイメージ形成要素項目は，「K-POP」「旅行」「語学研修及び留学」「SNS」「大学での教育」「韓国人教員」「韓国人観光客」「韓国製商品」などである。好きな K-POP アーティストや旅行・留学先で出会ったり，SNS で繋がっていたりする韓国人などとの民間レベルでの交流が，韓国に対して「とても良い」イメージを持つようになったと考えられる。ところが，「韓国人教員」について，本研究では，調査時期が早い2013年より2020年の方がより多く影響されているように見えるが，生越（2019）では，2018年より2003年の方がより大きく影響されている。これは，調査時期による差も関係しているのであろう。このような項目については，学習経験や調査時期

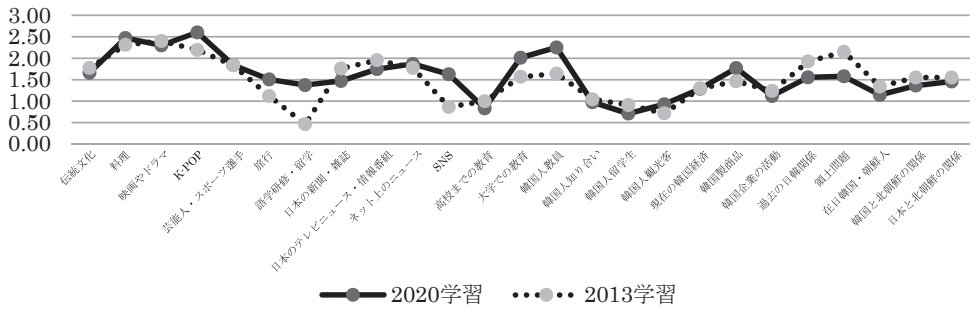


図 8　韓国語学習者の調査時期別イメージ形成要素

に加え，調査対象者が在籍する大学の状況などによっても異なると考えられる。

一方，「日本の新聞」「日本のテレビニュースや情報番組」「過去の日韓関係」「領土問題」といった項目では，2020年より2013年の学習者がより多く影響されていると答えた。

図９は，学習者の性別とイメージ形成要素の相関関係をグラフで表したものである。

ほとんどの項目において，男性より女性の方が大きく影響されていると答えた。男女の差が目立つ項目は，「料理」「映画やドラマ」「K-POP」「芸能人・スポーツ選手」「SNS」「韓国人教員」「韓国製商品」「日本と北朝鮮の関係」であるが，「日本と北朝鮮の関係」だけは男性の方が大きく影響されたと答えた。また，男性の方が若干多かった項目は「日本のテレビニュースや情報番組」「過去の日韓関係」「領土問題」「韓国と北朝鮮の関係」「日本と北朝鮮との関係」などであった。このような結果は，生越（2019）の結果と同じであり，本研究においてもその結果が検証されたと言える。ただし，本研究では，男女間で少し差はあるものの大体似たような傾向を表しているが，生越（2019）の結果では，男女の差がより激しく，項目別影響度においても男女の差が見られた。

図10は，韓国語非学習者の韓国・韓国人に対するイメージ形成要素を調査時期別に表した

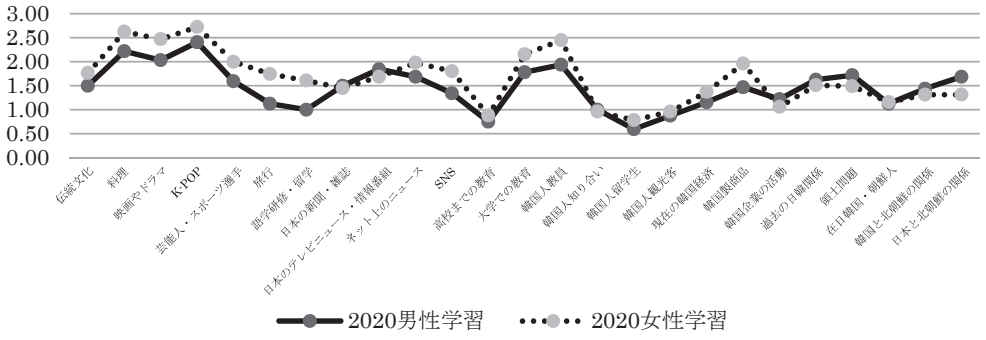


図 9　韓国語学習者の性別別イメージ形成要素

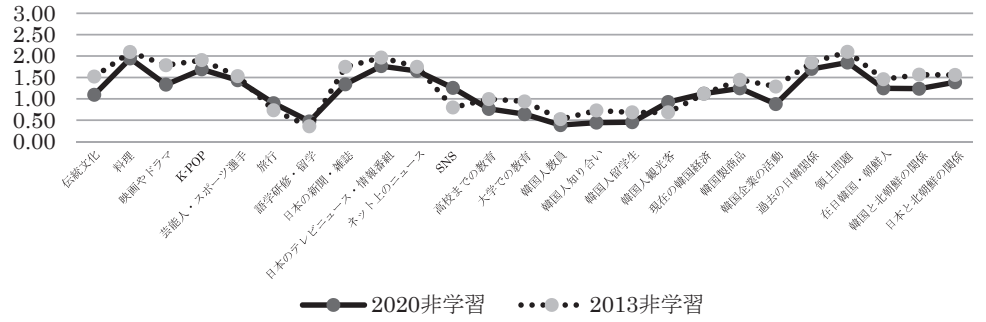


図10　韓国語非学習者の調査時期別イメージ形成要素

ものである。

学習者の結果に比べて，調査時期による変化は目立たず，大体同じ傾向であることが分かる。2020年に比べ，2013年の回答が，ほとんどの項目で多いが，特に「伝統文化」「映画やドラマ」「日本の新聞・雑誌」「大学での教育」「韓国企業の活動」「韓国と北朝鮮の関係」における差が若干目立つ。一方，「旅行」「SNS」「韓国人観光客」では若干2020年の方が若干多い。韓国及び韓国人に対するイメージ形成要素において，学習者グループでは調査時期による違いがあったのに対し，非学習者グループではそれほど目立つ違いは見られなかった。

図11は，非学習者の調査時期別イメージ形成要素をグラフで表したものである。

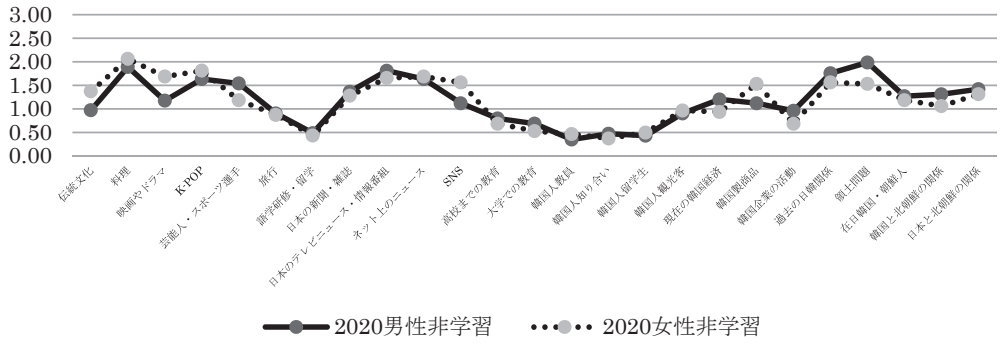


図11　韓国語非学習者の性別別イメージ形成要素

イメージ形成要素について，学習者グループでは男女の差が見られたが，非学習者グループではそれほど目立つ差は見られない。学習者グループでは，女性の方がほとんどの項目において男性より大きく影響されていると答えたのに対し，非学習者グループの結果では，男女の結果がほとんど同じでる。ところが，「映画やドラマ」「K-POP」「SNS」「韓国製商品」の項目では女性の回答が，「領土問題」「韓国と北朝鮮の関係」など歴史や政治に関する項目については男性の回答が多いことは学習者の傾向と同じである。韓国語を学習したことがあるかどうかに関係なく，韓国に対するイメージ形成要素において，男性は歴史や領土問題に，女性は映画やドラマ，K-POP などに大きく影響されると考えられる。

5. お　わ　り　に

本研究では，日本人大学生の韓国及び韓国人に対する意識調査を実施し，その結果を韓国語学習者と非学習者，男性と女性，調査時期（2013年と2020年）に分けて比較した。その結果，以下の点が明らかになった。

1）現在（2020年），半分程度の日本人大学生は韓国及び韓国人に関心があり，その関心度は

韓国語非学習者より韓国語学習者の方が，また，男性より女性の方がより高い。学習者と非学習者ともに，2013年より2020年の調査で関心度が若干減ってはいるが，その差は大きくない。広島修道大学における韓国語学習者の調査結果だけを見ると，2005年と2020年の関心度（「大変関心がある」＋「まあまあ関心がある」）にそれほど差はないが，「大変関心がある」と答えた人の割合は，2005年に比べ2020年で大幅に増えている。

2）日本人学生が「韓国」という国に対して持つ好感度についても関心度と同じ傾向である。関心度に比べると好感度の全体的数値は落ちているが，非学習者より学習者，男性より女性，2020年より2013年（特に非学習者グループで）の方が，韓国に対して良いイメージを持っている。

3）韓国及び韓国人に対するイメージ形成要素について，非学習者に比べ学習者の方が様々なイメージ形成要素に影響される。特に韓国の映画やドラマ，K-POP などの大衆文化と，旅行や語学研修先で会う韓国人，大学の韓国人教員など直接韓国人と交流することが，韓国に対するイメージ形成に多く影響している。

4）学習者グループのイメージ形成要素は，調査時期及び調査対象者の性別による違いが目立つ。2013年より2020年の方が，また，男性より女性が，より様々な要素から影響されていた。特に，同じ大衆文化であっても映画やドラマより K-POP の影響が大きい。また，語学研修や SNS，大学での教育，韓国人教員に大きく影響される一方，歴史や領土問題については2013年に比べ大きくない。

5）非学習者グループのイメージ形成要素は，調査時期による差はほとんど見られない。ただし，性別による差は見られ，学習者ほどではないが，男性より女性の方が様々な要素に影響されていることが分かった。女性は映画やドラマ，K-POP などの大衆文化，SNS から，男性は日韓関係や領土問題から大きく影響を受けている点は学習者と同じであるが，日韓関係や領土問題における男女の差は，学習者より非学習者でより大きい。

6）韓国語中級学習者は，韓国語初級学習者に比べ韓国及び韓国人に対する関心度と好感度が高い。イメージ形成要素においても，初級学習者より様々な項目から影響されているが，特に「旅行」「韓国人教員」の影響度が初級学習者より高い。

謝　　辞

本研究の調査にあたり，ご協力していただきました広島修道大学の学生と教員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

参 考 文 献

林炫情・姜姫正（2007）「韓国語及び韓国文化学習者の意識に関する調査研究」『人間環境学研究』 5 (2), 17–31.
生越直樹（2006）「韓国に対するイメージ形成と韓国語学習」『言語・情報・テクスト』13(1), 27–41.
生越直樹（2019）「韓国語学習と韓国に対するイメージ形成の関係：日本の大学生学習者へのアンケート調査を通して見た現状と変化」『言語・情報・テクスト』26, 27–40.
呉正培・金鉉哲（2009）「韓国語学習者の韓国人イメージに見られる特徴――東北大学における学習者と非学習者の比較――」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 4 , 57–68.
斉藤良子（2020）「日本に韓国語学習者と韓国の日本語学習者がもつ目標言語母語話者と目標言語に対するイメージ比較：初級クラス受講者を対象に」『國士舘大學教養學會』83, 65–82.
尹秀美・南相瓔（2014）「日本人の韓国人に対するイメージに関する調査研究――金沢大学学生の「初習言語」学習者間の比較を通して――(その1)」『言語文化論叢』第18号, 155–185.
尹秀美・南相瓔（2015）「日本人の韓国に対するイメージに関する調査研究――金沢大学学生の「初習言語」学習者間の比較を通して――(その2)」『言語文化論叢』第19号, 163–185.
尹秀美・南相瓔（2016）「日本人の韓国人に対するイメージに関する調査研究――金沢大学学生の「初習言語」学習者間の比較を通して――(その3)」『言語文化論叢』第20号, 115–140.